

かんわだより

1. 緩和ケアチームへの依頼について

10月に5階病棟整形外科より緩和ケアチームへ疼痛コントロール目的で依頼がありました。チーム介入後、オプソによるタイトレーションを行った後、MSコンチンを定期服用することにより、速やかな疼痛緩和が得られ、患者・家族の満足度も高かったように思われます。また、チームカンファレンスでは、リンクナースにより問題点を抽出し、患者・家族の希望に沿ったケアを行うこと、主治医のサポートをしていくことを話し合い、主治医への提言を行いました。これからも様々な症状緩和に努めて参ります。気軽に相談ください。

タイトレーションとは

鎮痛効果と副作用のバランスをとりながら、それぞれの患者にとって最適な投与量を定めること。速効性製剤をタイトレーションに用いて日々評価を繰り返すことにより、速やかに、かつ安全に徐痛が図れる。

2. TOPICS

- ①9月に行われた第5回日本緩和医療薬学会年会に参加しました。オピオイド、抗癌剤の耐性獲得機序に関する講演や緩和医療において薬剤師に求められていることについての講演があり、改めて幅広い知識の必要性や実際に患者に接することの重要性を感じました。
- ②10月に行われた第35回山口県緩和ケア研究会に参加しました。特別講演では埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科の大西秀樹先生より「がん医療における遺族ケアについて」の講演がありました。日本で数少ない家族外来・遺族外来における実例を交えて、家族や遺族に対するケアの重要性、気を付けるべきことなどを講演され、患者だけではなく、家族・遺族に対してももっと目を向けないといけないと感じさせられる講演でした。
- ③11月に行われた周南医学会に参加しました。特別講演では当緩和ケアチームともゆかりのある内富庸介先生が患者とのコミュニケーションについて講演をされました。早期介入の重要性や患者の訴えの引き出し方などを講演され、患者の訴えの引き出し方については質問表を作成し、ツール化するなどの工夫をされており、早速日常業務に活かせるような講演でした。
- ④第28回緩和ケアセミナーは「Webカンファレンス 今日から実践！がんの痛みをマネジメント」についてでした。多数の参加ありがとうございました。